

次の世代へ豊かな島、海、環境を渡すために

NGP、香川県豊島で「オリーブの木の植樹式」 及び「環境保全・再生活動」を実施

オリーブの木の植樹式を開催

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（小林信夫理事長）は3月28日、SDGsの取り組みの一環として、国内最大級の産業廃棄物不法投棄事件が発生した香川県豊島でオリーブの木の植樹式を行いました。

NGPは2019年より豊島の環境保全・再生活動を実施しており、活動当初から柚の浜の荒廃地の整備作業に取り組んできました。今回のオリーブの木の植樹は、その整備作業後の土地の有効利用を目的としたものです。オリーブは香川県の県木で、平和の象徴であるとともに、豊島事件の公害調停成立の際の記念樹でもあります。そのオリーブの木を植樹して育てていくことは、平和の輪を広げ、次の世代へ美しい豊島、地球を残すというNGPの決意表明でもあります。

植樹式では、瀬戸内オリーブ基金の協力を得て、NGP本部職員と組合員会社の従業員合計17人がオリーブの苗木16本を植樹しました。NGPにとって活動当初から整備作業に取り組んできた荒廃地が新しいスタートを切る感慨深い瞬間となり、参

加者からは、「NGPの豊島での活動の象徴となるように、豊かに育ってほしい」との声が聞かれました。

植樹されたオリーブにはイノシシ除けのフェンスを設置し、大切に栽培していきます。

環境保全・再生活動を実施

植樹式の後、3月28・29日の2日間で第8回目となる環境保全・再生活動を実施し、瀬戸内オリーブ基金の協力を得て不法投棄現場の見学及び不法投棄現場周辺の海岸漂着ゴミの清掃を行いました。

豊島の不法投棄現場において、汚染された地下水の流出を防ぐために約20年前に設置された遮水壁が、今年3月1日に撤去されました。不法投棄現場の見学ではその状況を確認するとともに、廃棄物対策豊島住民会議の安岐正三事務局長から、「地下水の浄化作業により、2021年度に水質が“排出基準（工場排水を川や海に流してもよいとされる基準）”に到達したため遮水壁は撤去されました。今後は自然の浄化力による“環境基準（人の健康を保護し、生

活環境を保全するうえで維持することが望ましいとされる基準）”への到達を目指すことになります」と、浄化作業の進捗などについての説明を受けました。

海岸漂着ゴミの清掃活動は、水ヶ浦の東側（産業廃棄物不法投棄現場近く）と柚の浜（オリーブの植樹式を行った場所の近く）の2カ所で実施しました。海洋ゴミ問題は、豊島事件と同様、大量生産・大量消費・大量廃棄の社会がもたらした歪みといえる問題です。特にプラスチックはそのまま放置するとマイクロプラスチックとなり、海の生態系を壊してしまう恐れがあります。

今回初めて作業をした水ヶ浦の東側には多くのごみが散乱しており、その多くはペットボトルや、発砲スチロールなどのプラスチックごみでした。豊島を含む瀬戸内海の生態系を守るために、入念に回収活動に取り組みました。

NGPは今後も海岸漂着ゴミ回収活動を継続的に行い、瀬戸内オリーブ基金と協力して、豊島事件の悲劇を二度と繰り返さないために環境保全・再生活動に取り組んで参ります。



植樹式の様子



不法投棄現場を見学。廃棄物対策豊島住民会議の安岐正三事務局長（写真右）から、浄化作業の進捗などについて説明を受ける



海岸漂着ゴミの清掃活動。漂着していたごみの多くはプラスチックごみだった

新型コロナウイルスの感染拡大などを受けた、作業内容別入庫台数・平均単価の動向

日本自動車整備振興会連合会はこのほど、「自動車整備白書」の令和3年度版を発行しました。同書は2021年6月末時点における自動車特定整備事業者を対象として実施した「自動車特定整備業実態調査」の結果を報告するとともに、市場動向などを加味した分析結果を提示することを目的としたものです。なお、同調査結果は2021年6月末に最も近い決算期の状況をまとめており、売上高などについては2020年度の実績となります。

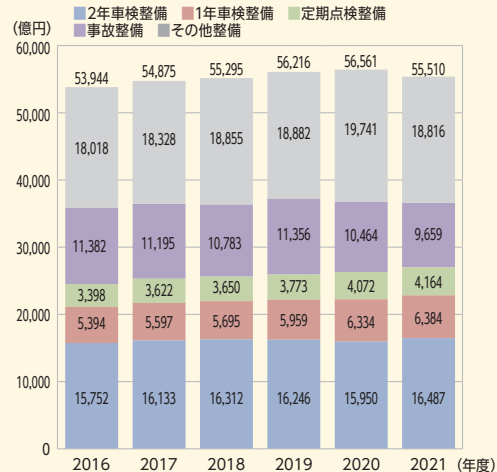
総整備売上高（グラフ1）は、NGPニュース3月号に掲載した「自動車特定整備業実態調査結果の概要」にてお知らせしたとおり、対前年度比1,051億円（1.9%）減の5兆5,510億円で、5年ぶりに減少へと転じました。さらに同書では調査結果の統計だけではなく、1事業場あたりの作業内容別売上高と年間平均入庫台数から平均単価を算出し、その動向について分析を加えています。

2年車検整備（グラフ2・3）の平均単価は、専業が前年度比0.9%増、兼業が同0.2%増、ディーラーが同3.2%増と全業態で前年度を上回り、全体平均では同1.7%増となりました。1事業場あたりの入庫台数も全業態で前年度を上回っていることから、新車の納期が長期化したことを受けて年式の古い車両の入庫台数が増加したことに加え、新型コロナウイルス感染対策としての車室内除菌・消臭製品やオイル・バッテリー交換などの提案、ASVの普及による整備項目の増加などが平均単価を押し上げたと考えられます。

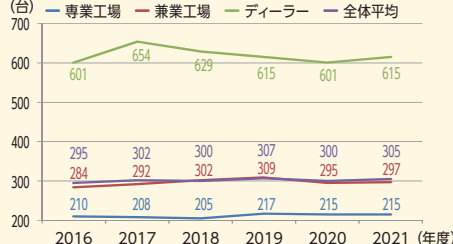
一方、1年車検（グラフ4・5）ではディーラーの入庫台数が前年度比で2.4%減少していました。日整連は、その背景として新型コロナウイルスの感染拡大により貨物車の新車代替が停滞し、年式の古い車両の車検依頼先としてディーラー以外を選択するケースが増加した可能性があるとして分析しています。定期点検整備（グラフ6・7）の入庫台数においても専業が増加した一方でディーラーは減少しており、1年車検と同様に古い年式の車両の入庫先として、専業が選ばれることが多かった可能性が考えられます。

事故整備（グラフ8・9）では、全体の平均単価は前年度比0.9%増と微増しましたが、入庫台数が同9.6%減と大幅に減少していました。近年のASVの普及を受けて、レーダーやカメラなどの高額部品の交換、エーミングやアライメント調整などが必要となるケースが増えたことが、単価上昇につながったと推察されます。一方、衝突被害軽減ブレーキ搭載車の普及に加え、新型コロナウイルス感染防止を目的とした外出自粛などの影響から交通事故発生件数及び事故整備売上高が減少したものと考えられます。

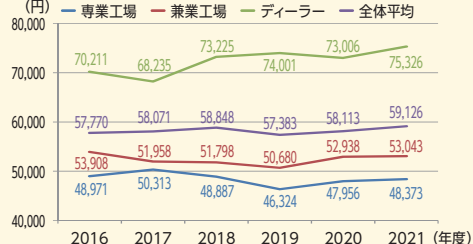
グラフ1 総整備売上高の推移（作業内容別）



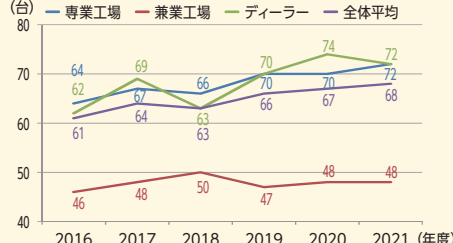
グラフ2 1事業場当たりの2年車検整備平均入庫台数（業態別）



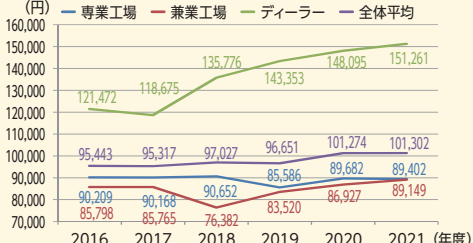
グラフ3 1事業場当たりの2年車検整備平均単価の推移（業態別）



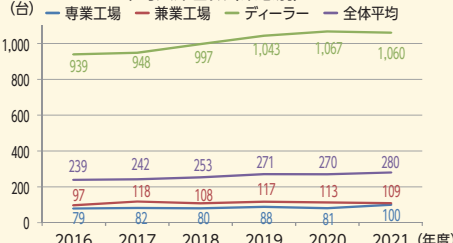
グラフ4 1事業場当たりの1年車検整備平均入庫台数（業態別）



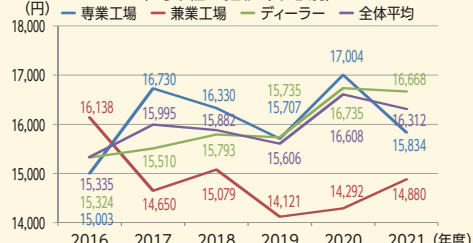
グラフ5 1事業場当たりの1年車検整備平均単価の推移（業態別）



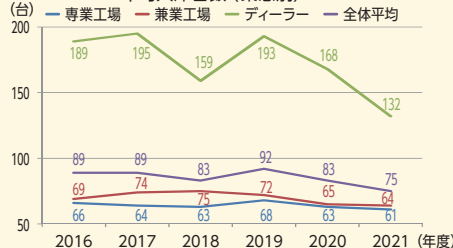
グラフ6 1事業場当たりの定期点検整備平均入庫台数（業態別）



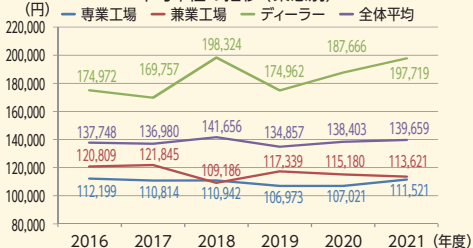
グラフ7 1事業場当たりの定期点検整備平均単価の推移（業態別）



グラフ8 1事業場当たりの事故整備平均入庫台数（業態別）



グラフ9 1事業場当たりの事故整備平均単価の推移（業態別）



オートモビルカウンスル、開催

自動車の歴史をひもとき、その魅力を伝える

「我が国に成熟した自動車文化を創成する」というコンセプトのもと、往年の名車や最新車両を展示する「オートモビルカウンスル2022」が4月15～17日の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

世界の自動車産業が変革期を迎えていることを受けて、7回目となる今回は最新BEVを紹介する「新世代自動車ゾーン」を新設し、新たな時代の自動車文化に対しても視野を広げて、自動車が持つ魅力を伝えました。

出展者はカーメーカーやインポーター、車両販売店など76社・団体、出展車両は約110台でした。



本田技研工業

今年50周年を迎えるシビックの歴史をパネルや当時のカタログで紹介するとともに、1972年式初代シビック（2ドア）（写真）と、本田技術研究所の社内自己啓発チームとして創部された「TEAM YAMATO」が初代シビックをベースとして1974年に製作したレース仕様車（最終型）の2台を展示



マツダ

今年7月からスーパー耐久シリーズへの参戦を予定するST-5クラス仕様マツダ スピリット レーシング ロードスター（写真）を初公開したほかレース仕様車3台を展示。また、モータースポーツを楽しむ人々のコミュニティとして「倶楽部 MAZDA SPIRIT RACING」の活動を開始することを発表した



日産自動車（特別展示）

東京オートサロン2022に参考出品したフェアレディZカスタマイズドプロトをはじめ、1970年式フェアレディ Z-L、1982年式フェアレディ 280Z-T 2シーターTバールフ、1989年式フェアレディ Z 2by2 300ZX ツインターボの歴代フェアレディ 4台を出品



プジョー

4月に発表し受注を開始した新型308（欧州仕様）（写真）を披露したほか、1994年式205GTIなど計4台を展示



ポルシェジャパン

1973年式911カレラRS2.7（写真手前）、1980年式911SC（写真奥）、2022年式911カレラ4GTSのほか、EVモデルのタイカン ターボS（2021年式）を展示



アルヴィス

レストア車4台のほか、当時の図面を用いてデザインを忠実に再現した「コンティニュエーション・シリーズ」から日本初公開となる3L グラバール・スーパー・クーペ（写真）含む2台を展示



ヤナセ／ヤナセクラシックカーセンター

1989年式560SL（写真）などのメルセデス・ベンツ車6台、1991年式ゴルフⅠカブリオなどのフォルクスワーゲン車2台の計8台を出品

NGP 今月のCO₂削減量



リユース部品利用に伴うCO₂削減量

令和4年3月：

2,407t



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和4年3月：

0.8t

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品をきむと115品目）を対象に算出した数値です。

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

次世代自動車に対する カーオーナーの購入意向などが示される

日本自動車工業会（豊田章男会長）はこのほど、2021年度に実施した乗用車市場動向調査の結果を発表しました。同調査は、単身世帯を含む全国の一般世帯における乗用車の保有、今後の購入意向などを隔年ごとに調査し、需要の質的变化の見通しに役立てることを目的としたものです。

同調査結果によると、乗用車世帯保有率は77.9%となり、地方圏中都市以下、家族形成期～成熟期で保有率が高い傾向にありました。また、保有者の6割弱が維持費を負担に感じ、非保有の理由としても維持費負担が上位を占める傾向が継続している

結果が示されました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響では、移動手段として公共交通機関より第三者接触を回避できる自家用車へのシフトが見られました。生活変化では「外向きの生活」が減少し、特に不要・不急の外出を自粛したことで「長距離移動を伴う外出」が大幅に減少していました。一方、1年後に外出や移動状況がコロナ前の状態に戻るかどうかは見方が分かれていました。

次世代自動車への意識では、電気自動車（EV）の購入を検討している層が約3割に上り、増加傾向にありました。一方、

購入に当たっての懸念点としては車両価格に加え、「充電時間」、「航続距離」、「充電施設の場所や数」、「バッテリーの耐用年数」が多く上げられました。次世代技術に対する意識では、自動運転車に関心があるとの回答率が5割弱でした。一方、関心がないと回答した理由では「安全面で不安」、「自分で運転したい」が上位となりました。

自工会は同調査結果と併せて2021年度二輪車市場動向調査、同年度軽自動車の使用実態調査の結果を発表しており、いずれの調査結果も同会Webサイトから確認することができます。

「NGP大感謝キャンペーン」6月30日まで開催中！！

合計当選金額・当選者数は
過去最高！！

宝くじなどの賞品が抽選で当たる「NGP大感謝キャンペーン」を、4月1日～6月30日までの3ヵ月間開催しています。

NGPリサイクル部品に貼付されるギャランティシールを集めてご応募いただいた方の中から、抽選で1,013名の方に宝くじなどの賞品をプレゼントいたします。

今回は、応募用紙3枚分（ギャランティシール63枚）を1口として応募が可能な大口コースと、前回同様3枚一口でご応募いただける通常コースをご用意致しました。

また、前回3等に香川県豊島のオリーブを100%使用した賞品を設定したところ、多くのご応募をいただいたことから、今回の3等にも同様に「豊島のオリーブオイルセット」を選べる環境貢献コースをご用意しております。NGPはSDGs活動の一環として、国内最大級といわれる産業廃棄物不法投棄事件が発生した香川県豊島で、NPO法人瀬戸内オリーブ基金と協力し、環境保全・再生活動を続けています。「豊島のオリーブオイルセット」は瀬戸内オリーブ基金が販売する商品で、売り上げの一部は瀬戸内の美しい自然

を守るために活用されます。

応募用紙は各NGP組合員より皆様に配布するほか、当組合Webサイト（<https://www.ngp.gr.jp/campaign/>）からダウンロードすることも可能です。なお、ギャランティシールに付帯しているベルマークは切り離し、ぜひ地域社会貢献にご活用いただきたくお願い申し上げます。

お一人様何口でもご応募いただけます。皆様からのご応募を心よりお待ちしております。



プレゼント内容

大口コース → 応募用紙3枚分（ギャランティシール63枚）で応募可能

1等「サマージャンボ宝くじ1,000枚」または「Amazonギフト券300,000円分」または「JCBギフト券300,000円分」+豊島オリーブオイル50ml（1本）.....5名様

★大口コースに外れても、通常コースでダブルチャンス！

通常コース → ギャランティシール3枚1口で応募可能

1等「サマージャンボ宝くじ666枚」または「Amazonギフト券200,000円分」または「JCBギフト券200,000円分」+豊島オリーブオイル50ml（1本）.....1名様

2等「サマージャンボ宝くじ100枚」または「Amazonギフト券30,000円分」または「JCBギフト券30,000円分」+豊島オリーブオイル50ml（1本）.....7名様

3等「サマージャンボ宝くじ10枚」または「Amazonギフト券3,000円分」または「JCBギフト券3,000円分」または「豊島オリーブオイルセット（3,000円相当）」.....1,000名様

組合員情報変更

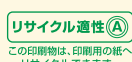
支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北関東	株式会社3R	会社代表	代表取締役 宮永 泰延	2022年4月1日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201
<https://www.ngp.co.jp/>



FSC® 森林認証紙、ノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など印刷資材と製造工程が環境に配慮されたグリーンプリンティング認定工場にて、再生可能エネルギー 100%で印刷。印刷会社が所有する施設や車両、購入した電力などエネルギーの製造時に排出される CO₂ 全量をカーボンオフセット（相殺）した「CO₂ ゼロ印刷」で印刷しています。